

# なんたん

No. **35**

農業委員会だより

平成30年2月号



## 白銀の里山で雪遊び

農業委員会のうごき	2・3
地域農業を支える	4
まちかど通信	5
特集	6・7
なんたんあっちこっち他	8

平成30年1月27日  
美山町北 かやぶきの里



発行 南丹市農業委員会 編集 南丹市農業委員会広報委員会

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

■電話 0771-68-0067

■E-mail [co-nougyo@city.nantan.lg.jp](mailto:co-nougyo@city.nantan.lg.jp)

■FAX 0771-63-0654

■URL <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html>

# 農業委員会のうごき

## 岡山県にて先進的取り組みを視察 (管外視察研修：平成29年11月16～17日)

### 1日目 岡山県高梁市 遊休農地の活用事例



高梁市産業経済部農林課職員に話をうかがいました。同市では、水稲・トマト・ピーネなどの栽培が盛んです。地域の約8割は中山間地で、過疎化・高齢化・耕作意欲の低下により、遊休農地の増加が問題となっていました。そこで、農業委員会と市とで何とかしようとして話し合い、牛の放牧、紅茶の生産、衰退した煙草産地での兼業農家によるジャガイモ栽培を進めました。

▲遊休農地で放牧中の牛  
牛の放牧では、地域住民との話し合いを重ね、理解を得ることができました。牛が草を食べ、有害鳥獣対策にもなり、農地の管理ができることから、組合活動として取り組んでいます。また、遊休化した茶園では需要が高いと見込んだ国産紅茶を生産し、学生ボランティアとの茶園手入れでの交流や、特産品づくりにもつながっています。煙草農家の衰退に関わる荒廃農地では、負担の少ないジャガイモ栽培を推奨し、品種改良を重ね、気候に合った特別な品種を作り、レストランなどで喜ばれています。

具体的事例について聞いたあと、場所を移動して、玉川町増原地区の農地で牛を放牧する様子を見学しました。

### 2日目 岡山県赤磐市 特色ある農業 推進事業を实践

赤磐市では、市産業振興部職員と農業委員から、農山村活性化のための実践例をうかがい、意見交換を行いました。同市では、白桃・マスカットなどの果樹栽培が盛んで、就農者の育成・支援に力を入れていきます。経営感覚のある農業者の育成を目的に、市役所・JA・農地中間管理機構の3者で協定を締結し、「就農支援センター」を開設しました。「新規就農者は、わが子と想って対応している」との農業委員の言葉には、思いやりや心の温かさが大切であると感じました。



また、市内産農産物などのブランド化・高付加価値化を図る「赤磐の夢プロジェクト」を企画、日本野菜ソムリエ協会と協力した「スター農家育成プロジェクト」の推進、地産地消の推進かつ首都圏での販売や海外輸出、インバウンドへの販売強化などを、関係機関や市民が協力して行っています。鳥獣害対策では、保護団体などの理解を得て本格的なサル対策に取り組んでいることに驚きました。



▲研修の様子(赤磐市)

▲大粒のマスカット

(文書：宇野十三治委員)

## 施策改善を求める意見書を提出

平成 29 年 10 月 19 日、「農地等利用最適化推進施策の改善に関する意見書」を、農業委員会法第 38 条第 1 項の規定により、市長に提出しました。また、平成 29 年 11 月 22 日、南丹市より意見書への回答がありました。  
(以下に一部抜粋・要約した内容を掲載します。全文は、農業委員会ホームページで公開しています。)



### I. 安定した農業所得の確保に関わる施策

米の直接支払交付金制度の廃止に伴う対策について

農家からの  
意見

米の直接支払交付金制度が平成 30 年産米から廃止される。平成 31 年度から始まる「農業経営収入保険事業」は青色申告が必須であるなど、水稻生産農家は不安を抱えている。同交付金制度にかわる施策を市独自で創設してほしい。

回答

同交付金制度の廃止は大きな問題であるが、同等の施策を市独自の財源で行うことは難しい。平成 29 年度に創設した市独自の「がんばる農業応援事業」などで、集落の共同利用機械への助成を推進するなどして、農家支援を行う。また、収入保険制度が始まるが、従来の共済制度は、強制から任意加入となるなど制度変更され存続するため、無保険農家が増加しないよう、関係機関とともに推進する。

### II. 人材育成

担い手の育成及び発掘と認定農業者の増加に向けた取り組みについて



農家からの  
意見

南丹市内の農業の担い手を発掘し、研修会や意見交換会など情報共有の充実を図り、関係機関と連携して、支援施策など農政に関する情報を農業者に周知することを徹底してほしい。

回答

新規就農を希望する若手への研修と交流の場としては、京都府農業改良普及センターによる約半年間の就農サポート講座、また主要特産品の振興を図るための特産物育成協議会による産地ごとの互見会など、様々な研修機会を開催している。平成 29 年度新設の「がんばる農業応援事業」のニーズ調査など、認定農業者・認定新規就農者、農家・農事組合長へ制度の情報提供を直接行っている。農業者の声をしっかりと受け止め、農業施策に関する情報提供のための環境づくりを進めたい。

### III. 荒廃農地対策と野生鳥獣害対策

有害鳥獣による被害対策の支援について



農家からの  
意見

有害鳥獣による農作物被害が拡大している。捕獲の大幅強化と恒久防護施設の整備、広葉樹の森づくりの推進と、積極的な取り組みを望む。また、サルへの対策強化を望む。

回答

鳥獣被害防止対策として、捕獲と防除の両面から対策の実施が必要。広域連携も含めた有害鳥獣の捕獲事業を継続しつつ、野生鳥獣の生息個体数を制限するための計画的な捕獲を進める。また、関係機関と市民が一体となって、森林と集落の間へ緩衝帯整備や里山の環境整備を進め、総合的に防除する環境づくりに取り組む。サル対策では、兵庫県の篠山市、丹波市、京都府の京丹波町、福知山市と「大丹波地域サル対策広域協議会」を設立し、地域ぐるみで取り組む被害防除のための研修会開催、サルの広域監視システムの構築を行っている。今後は、徹底的な追い払いによるサル対策を強化する。

# 地域農業を支える

## あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、力強く活動する  
団体・個人を紹介します。

### 農事組合法人 ふなえだ (南丹市八木町船枝)



船枝地区は、八木町北西部、亀岡盆地の北端に位置し、北部は丹波高地へ、西には大堰川(桂川)が流れています。

#### ◎設立の経緯

約40年前から生産組合を作り、農作業受託や集団転作で小麦・大豆・小豆などを栽培していました。しかし、年々農業を取り巻く環境は厳し

くなるようになり「信用力の強化」「剰余金の内部留保が可能になり、安定経営が見込める」「交付金・補助金などの機会の増加が見込める」「農業施策の変化に対応できる」ことを法人化のメリットとして期待しています。

#### ◎経営概況と法人の特色

経営概況の現在は、水稲栽培は4・1割(収益割合44%)、麦栽培6・3割(収益割合3%)、小豆栽培6・3割(収益割合50%)、作業受託2・1割(収益割合3%)です。数年後の目標では、水稲栽培は15%増、作業受託は14%増を予測しています。

水稲・米は、作期分散とJAの要望から酒米のかけ米用に日本晴を栽培しています。小豆は機械化栽培を実施し、収益は安定しています。ほ場の預託は、原則として京都府農地中間管理機構の「利用権設定方式」によります。機械・施設は船枝生産組合から有償で借り上げ、効率化を図っています。ほ場は自己管理で地権者と有償の自己管理契約を結び、草刈などを委託しています。

「地域の現状と今後を予測すると、地域の農地・農業を守るには、生産組織の維持発展以外は考えられません。将来的には、若い担い手が確保できれば、六次産業化の取り組みも検討していきたいです。」と代表理事の井尻稔さんは語りました。

(取材：波部良典 委員)



▲小麦の播種作業



▲小豆の収穫作業

# 全国上位の評価を受ける 南丹市の畜産業 (牛肉・豚肉)



## (有)日吉ファーム(日吉町) 豚肉・京丹波高原豚



母豚に集まる子豚



北側さん

第5回全国豚枝肉コンクールが9月6～8日、大阪市、大阪府畜産会、大阪市食肉市場の主催により近畿地方を中心に開催されました。南丹市から(有)日吉ファーム(代表・北側勉さん)が出品。284頭の中から平成29年度最高賞である名誉賞に選ばれました。3年ぶり3度目の受賞となりました。

長年、北側さんは家族で経営していましたが、独立を志し、同業者の知人を通じて購入したのが日吉町上胡麻の現在の場所です。当時は、周囲の農家が水稲や野菜作りのかたわら、豚の飼育もしていて歓迎されました。豚ふんは地元農家の野菜作りにと供給し、とても喜ばれました。

「飼育に大切なのは、種豚が持っている能力をどのように最大限引き出すかという事。飼料と環境には特に気を使っています。飼料面では、基礎飼料パン、カステラや菓子類のエコー飼料を絶妙な配合で加えています。また、環境面では、京丹波地方の澄んだ空気、きれいな水を利用しつつ、飼育温度及び豚の健康状態を管理し飼育しています。そうすることで京丹波高原豚は、さしの入ったジューシーで柔らかい肉になり、脂身が白く甘く仕上がります。今後最高級の商品安定してお客様に提供するために、努力を惜しみません」と北側さんは語りました。

(取材：谷口定己 委員)

宇野十三治(委員)

## (有)京都丹波牧場(八木町) 牛肉・平井牛

5年に1度開催される「和牛のオリンピック」、全国和牛能力共進会が平成29年9月7～11日、宮城県仙台市で開催されました。全国の和牛250万頭の頂点を決める本会に、(有)京都丹波牧場(代表・平井一三さん)が京都府代表として出場し、肉質を競う部門で2位と5位に入賞しました。さらには、11月に兵庫県神戸市で開催された第64回近畿東海北陸連合肉牛共進会において、平成26年に引き続き農林水産大臣賞を受賞しました。肉用牛の飼育頭数が約6千頭の京都府の同牧場が、33万頭の鹿児島県、25万頭の宮城県などの和牛大産地と肩を並べ、各地の銘柄牛を超えた成績は、まさに快挙といえます。



清掃を徹底した牛舎



長期肥育中の牛

同牧場は、南丹市八木町で、黒毛和牛を約1700頭飼育しています。平井さんは家畜商4代目で、先代より伝承される肥育技術を生かして、最高品質の和牛生産に取り組み続けています。

清掃を徹底した清潔な牛舎で、血統など選りすぐりの牛たちが、良質な餌をふんだんに与えられ、ゆったりと飼育されています。また、品質の良い牛ふん堆肥は地域に供給され、地域農業の土台となる土づくりに協力しています。

「わずかな変化も見逃さない体調管理の徹底と牛に対する愛情が何よりも大事。これまで培ってきたことを忠実に実行してきただけです。これからも、京都府内の和牛農家をはじめ、関係者と協力・連携しながら、京都府産和牛のおいしさ・すばらしさを国内だけでなく海外へも強く発信していきたいです」と平井さんは語りました。

(取材：廣瀬但 委員)

# 特集



## 里の文化と暮らし

### 家族との時間を大切に いなな暮らしに魅力を求めて

美山町長谷 ながたに

大西 おおにし

勇さん いさむ



南丹市美山町で暮らす大西さんは、由良川の  
大野ダム湖に架かる萱野橋を渡り、J A 京都の  
育苗センターの近くに平成20年  
大阪から家族で移住しました。  
現在は、妻、高校生と小学生の  
お子さんとの4人暮らしです。

当初、林業の仕事を求めて、  
知人の紹介を得て、大阪での会  
社勤めから美山に移住しました  
が、共働きで子どもも小さく、  
家族との時間を大切にしたいと、  
自分の責任で仕事ができる農業  
を選びました。平成29年10月に  
実践農場での研修が終了し、新  
規担い手農家としてスタートし  
ました。

現在、美山町長谷や小淵、  
谷の農地で、水稲の作付60ア  
ール、野菜は万願寺とうがらし、  
トマト、キュウリ、黒枝豆、水  
菜を栽培し、出荷しています。

「農業を始めて日も浅く、毎  
日が勉強の日々です。仕事、家  
庭、地域、3つの活動バランス  
を等しくとって、堅実に暮らし  
ていきたいです」と語ってくれ  
ました。

(取材：梅津義明 委員)

## 収入保険が始まります

平成31年から、青色申告(簡易方式含む)を行う農業者を対象に、農産物全体の収入減少を補てんする「収入保険制度」が始まります。(受付は平成30年秋から)。

加入条件や補償内容など詳しいことは、京都府農業共済組合にお問い合わせください。



**京都府農業共済組合  
京都支所**

所在地：南丹市園部町小山東町  
溝辺 21-2

☎ 0771-63-2951

# 農業者の生の声を聞き、農政への反映を検討する 農業者等との意見交換会



にしだ たかひこ  
西田 貴彦さん



かみやましんいちろう  
神山信一郎さん



いのうえ まさあき  
井上 雅晶さん



たに まなぶ  
谷 学さん



すが ともあき  
須賀 智昭さん



きそ だつねお  
木曾田恒男さん



いじり ひろゆき  
井尻 浩之さん



おおにし いさむ  
大西 勇さん

10月27日、「農業者等との意見交換会」を開催しました。南丹市内で農業の担い手として活躍する農業者と意見を交換し、現状や課題を把握することにより、市農政施策の改善や要望提案などにつなげることを目的としています。市内で農業を営む30〜50代の農業者の方8名、農業委員12名と事務局職員、農林商工部長、農政課長が参加しました。農業を法人で営む方、営農数年目の新規営農者の方、自作の農作物を加工・販売する方など、営農状況はさまざまです。

共通の苦労話として出たのが、野生鳥獣害についてです。シカやイノシシなどの被害は年々増加し、電柵・網など対策資材の購入で費用負担が増えているとのこと。狩猟で個体数を減らすためには、わなの購入経費や処理設備の不足などが課題となります。

また、平成29年2月の大雪、同年10月の台風24号の暴風雨と、年に2度の自然災害が発生しました。両方被災した方もあり、金銭面・精神面とも負担が大きいのことでした。

それぞれの思いを語り、情報を提供し合う中、集まって話をする機会の重要性を感じました。「市内の農業者同士の情報共有・交流の会を開催してほしいです。そこから指導や技術の伝承、後継者への農地継承につながることもあります。また行政・農業委員の方には、その場で積極的に生の声や要望を聞いてほしいです」との意見があり、今後検討していくこととなりました。

(文書：徳山憲司 委員)

長い人生、準備は今から。  
将来への備えは、家族ひとりひとりに対して。

## 農業者年金へ加入しましょう



★農業者年金は、国民年金（基礎年金）に上乗せした任意加入の公的年金制度

- ①積立方式（確定拠出型）で少子高齢化時代に強い年金です！
- ②生活設計や経営状況に合わせて（2万円から6万7千円まで千円単位）保険料設定可。
- ③収入が多いとき、保険料（社会保険料控除）を増やせば節税できます。

★加入資格…国民年金の第1号被保険者（※保険料の免除者は除く）・年間60日以上以上の農業従事者・60歳未満の方

# なんたん あっちこっち

とにかく広い南丹市。  
南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白い、  
楽しい、また興味深い取り組みがされています。  
そんな南丹市の、**あっちこっち**のできごとを紹介します。



## 米作り学習「米くらぶ」で地域交流

京都府立丹波支援学校中学部では、平成29年度より、学校近隣の田んぼを借り、米作りの指導も受けながら、生徒たちが米作り学習に取り組んでいます。「丹波支援学校らしい地域交流のあり方」を目指し、地域住民との共生を図り、地域に貢献するためです。

6月6日には代掻きを兼ねて泥遊びを行い、8日には田植えを行いました。8月下旬～9月上旬には、かかしを作り、亀岡夢コスモス園のかかしコンテストへ応募もしました。

幾たびの雨もあつて、なかなかできなかった稲刈り。10月10・11日、みんなが協力して、豊かに実った稲を刈り取ることができました。多くの生徒にとって、慣れない作業や初めての作業も多かったのですが、粘り強く取り組むことができました。

12月12日には収穫祭を行いました。みんなが無事に収穫できたことに感謝しながら、今年とれたお米をいただきました。

(京都府立丹波支援学校中学部 織田有二先生)



▲稲刈りできたよ!



▲脱穀作業を体験

## 委員ぶらり旅

旅人：谷口定己 委員

### 源光庵 (京都市北区鷹峯)

小春日和に背中を押されて、農作業に奔走した体を癒し、新たなエネルギーを得るため、ひとり旅に出ました。JR二条駅で下車し、市バス6号系統で千本通をあがること約30分。錦秋の洛北、光悦寺にほど近い源光庵へむかいます。

関ヶ原の戦いの前、徳川家康の忠臣・鳥居元忠は、石田三成の大軍勢を伏見城で迎えます。鳥居氏側の多くの武将は討死し、生き残った者も城内で自刃しました。痕跡が残る城の床板を、供養のため寺におさめた「血天井」は、本堂の見どころの一つです。

そして、有名な二つの窓、丸窓と角窓へ。丸窓は悟りの窓といい、「禪と円通」の心を表し、円は大宇宙を表現しています。角窓は迷いの窓といい、「人間の生涯」を象徴し、生老病死の四苦八苦を表します。

畳に腰を落とし、「血天井」を見上げて戦国時代へ思いをはせたり、窓から臨む庭の紅葉に感激したりと、わずかながら我を忘れた至極の間でした。



▲庭の紅葉



▲丸窓「悟りの窓」

## 編集後記

深雪の美山かやぶきの里で開催される「雪灯廊」<sup>ゆきとうろう</sup>。国内外からの多くの観光客が雪で灯ろうをつくり、夜には明かりで浮かび上がる集落の雪景色を楽しみました。(梅津 義明 委員)

### 地域の食と農業の情報紙『なんたん』

自慢の農作物・地域の積極的な取り組み・地元野菜の食べられるお店など、すてきな情報をお待ちしております。  
農業委員会事務局 電話：0771-68-0067

- ◆広報委員会
- 【美山町】梅津義明
- 中野貞一
- 【園部町】平野清久
- 小林義雄
- 関 隆宏
- 【日吉町】宇野十三治
- 谷口定己
- 【八木町】波部良典
- 廣瀬 但
- 徳山憲司

